



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2018

No. 19 (平成30年11月7日)

SGHクラブの活動レポート

## SGH佐呂間町フィールドワーク

夏休み中、8月6日(月)から9日(木)にかけて、SGHクラブ国内班(8名)が北海道佐呂間町でフィールドワークに取り組みました。テーマは「公害からの復興とエコに関する取り組み」についてです。6日と9日については移動日に充て、7日と8日にフィールドワークを行いました。概要を報告します。

### 1日目

#### 《町長・教育長表敬訪問》

佐呂間町役場にて、佐呂間町長川根章夫様と教育長仲川倫則様の表敬訪問を行いました。私たちが温かく歓迎していただき、これから行う活動への激励の言葉をいただきました。また、研究員を代表して新井康平くんが挨拶をし、本フィールドワークに至るまでの研究について、また本フィールドワークへの意気込みについてお伝えしました。



#### 《佐呂間町の紹介とまちづくり》

佐呂間町についての様々なデータやどのような広報を行っているかのお話をいただきました。

#### 《栃木入植の歴史》

佐呂間町佐呂間町への栃木県民の移住についての歴史の講義を佐呂間町役場保健福祉課課長の武田温友様にいただきました。本フィールドワークに行く前に勉強したことを含め、より深い内容を学ぶことができました。



#### 《展示資料説明》

佐呂間町民センターに展示されている版画家小口一郎氏の作品等の説明をしていただきました。生徒たちは一人一人が熱心に作品を観ていました。



#### 《記念碑等現地説明》

栃木神社と名付けられた場所や、開拓百年を記念した記念碑の見学を行いました。「栃木」という文字があちこちに見られ、北海道には本当に「もう一つの栃木」があることを実感しました。



#### 《阿部隆文様によるお話》

栃木県移住開拓の四代目である阿部隆文様からお話を聞くことができました。阿部さんは、曾祖父が栃木県からの入植者であり、それを引き継いで現在佐呂間町で酪農家として日々働いています。阿部さんによると、移住者の後継がどんどん減少していき、現在は4世帯のみであるということでした。歴史を伝える役目の重さを痛感しました。



#### 《日光多門寺説明》

少し歩いて日光多門寺にて説明を受けました。ここにも日光という栃木県民には聞きなれた地名が含まれています。昨年は佐野市長さんも訪問したそうです。



## 《栃木歌舞伎創始者・川島平助の生涯》

栃木県谷中村で生まれた川島平助についての歴史を知ることができました。彼もまた、鉱毒事件の影響を受けて、最終的にサロマベツ原野に移住した一人です。そこで歌舞伎を広めた経緯について、詳しく知ることができました。

### 2日目

## 《開拓資料館見学》

町民センターの目の前にある開拓資料館の見学を行いました。佐呂間の発展の歴史について、使用されていた農機具や住民が使用していた物が数多く展示されていました。その中には、やはり栃木地区の物もいくつか見ることができました。



## 《「日本人は何を考えたのか」DVD鑑賞》

NHKのシリーズ番組である「『日本人は何を考えたのか』第3回 森と水と共に生きる」から田中正造についての特集が組まれたDVDを鑑賞しました。その内容から、足尾銅山鉱毒事件はまだ終わっていないことを知りました。また、物事を民衆の力で考えて、国家という壁を越えてお互いに協力し合うことの大切さについて学ぶことができました。

## 《正造が求めたもの(まとめ)》

ここまで学んだことの総まとめを、武田温友様にいただきました。ご自身の体験談を元にお話しもしていただき、今後ここで学んだことを広く伝えていくと共に、グローバルリーダーを目指す本校の活動にも触れていただき、今後の活躍への期待の言葉をいただきました。

## 《「超豪快ホタテ漁」DVD鑑賞》

佐呂間町の漁師の生活を支えるホタテ漁についてのDVDを鑑賞しました。ホタテ貝の漁獲量はオホーツクで50%と宗谷で41%と、北海道だけで90%以上を占めています。そのホタテ漁が確立するまでの苦労とその成果について学ぶことができました。

## お知らせ

本フィールドワークの内容は、栃木県立佐野高等学校のHPに掲載しています。ぜひご覧ください。

## ～研究員の感想(抜粋)～

正造はもっと根幹にある政府の基本的な人権の軽視を問題と考え、その改善を目指して活動していたのではないかと感じるようになった。

また、正造が自然との共生を意識していたことを改めて知り、彼の思想への理解がより深まった気がする。これからより多くの文献に触れ、田中正造の目指したものに近づけるよう研究を続けたい。

(2年 新井 康平)

街で見た全てのものに田中正造の痕跡が見られる訳ではないが、人々の心の強さや、助け合いの精神のようなものに何処と無く感じられた。

私たちが為すべきことは「情報」を発信する事だ。「情報」とは佐呂間町のことであり、且つ北海道の栃木地区のこともある。これらを語り継ぎ、先人たちに感謝し、また彼らから学ぶ事が必要なのではないかと。

(2年 安生 温大)

村民に教えようとしても逆に教わる事が多いという田中正造が生んだ谷中中学を知った。鉱毒事件についてだけでなく佐呂間町についてより深く学ぶことができてよかった。

(2年 大嶋 佑佳)

田中正造についてのDVDは、とても細かくそしてわかりやすくまとめられていて、今まで学んできたことを振り返る良い機会となった。その他にも、ホタテ漁についてのDVDを鑑賞したり、サロマ湖を一望できる展望台へ登ったりするなど、佐呂間についてより深く知ることができました。

(2年 高橋 くるみ)

佐呂間町で田中正造やもうひとつの栃木を学んだことで、今までとは違った視点で見たり感じたりすることができた。自然とどう生きていくかが今後の課題になっていくと感じた。

(1年 秋野 恵理)

「自然と共生していく必要性という未来を見据えた考え」という谷中中学についてとても興味を持った。現代、文明は大きく進歩しつつある中このような考えは失われつつある。この貴重なお話を聞いたことを無駄にせず研究に最大限に生かし、田中正造の意思を受け継ぐ存在になりたいと感じた。

(1年 大塚 萌絵)

今の自分たちは何をすべきか考えることができた。自然とともに生きるということは現代社会では疎かになっていると思う。これからの社会の流れに合わせながら自然をどうするか、がこれからの課題だと思った。

(1年 安部 悠菜)

田中正造は、本当に民のことを思い最期までこの事件に向き合っていたことがよく分かった。

佐呂間は、とても魅力的な所ばかりで美味しいものがたくさんあるので、また来たいと思います。

(1年 茂木 千紘)